

日本都市社会学会ニュース

No. 79 (2008. 4. 1)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1

立教大学社会学部江上渉研究室内

e-mail: u-socio@grp.rikkyo.ne.jp

fax: 03-3985-2833

URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/urbansocio/>

振替口座 00140-4-703976

歓迎の言葉

法政大学 田嶋淳子

第26回日本都市社会学会大会が、9月13日（土）、14日（日）に法政大学社会学部（多摩キャンパス）で開催されます。

法政大学社会学部は、私立大学では最古の社会学部という歴史を誇りますが、実態は創立以来ずっと経済学者をはじめ他分野の教員の方が多い「社会科学部」で、都市社会学関係では、北川隆吉先生、石川淳志先生が活躍された後は、非常に手薄な分野になっておりました。今世紀に入る前後から堀川三郎（科目は社会調査）、中筋直哉（地域社会学）、田嶋淳子（国際社会学）と都市社会学関係者が増え、また1999年新設の人間環境学部には西城戸誠（環境社会学）が入りました。この大会開催を契機にして、学生・教員に都市社会学への関心が高まることを期待しております。

多摩キャンパスは1984年に開かれ、郊外型大学の新しいモデルとして多くの卒業生を世に送り出してきました。その歴史も20年を超えますと色々な問題が出てきます。近年の学生の都心回帰志向、大学経営改革、学部再編のなかで、私たちの学部の将来にもさまざまな困難が予想されます。それはちょうど近代日本の都市が現代において抱えている困難と重なるものがあります。今大会では現代の都市郊外をテーマとするシンポジウムが開催されると聞いております。以上の意味でも学ぶことが多いのではないかと期待しております。

郊外型大学の常として、会員諸兄姉には交通面でのご不便をおかけしますが、どうか多数のご参加をお待ちしております。

1. 日本都市社会学会 第26回大会開催について

期間 2008年9月13日(土)～14日(日)

会場 法政大学 社会学部(多摩キャンパス)

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

J R 横浜線 相原駅下車・J R 中央線 西八王子駅下車・京王線 めじろ台駅下車

キャンパスアクセス <http://www.hosei.ac.jp/hosei/campus/annai/tama/campusmap.html>

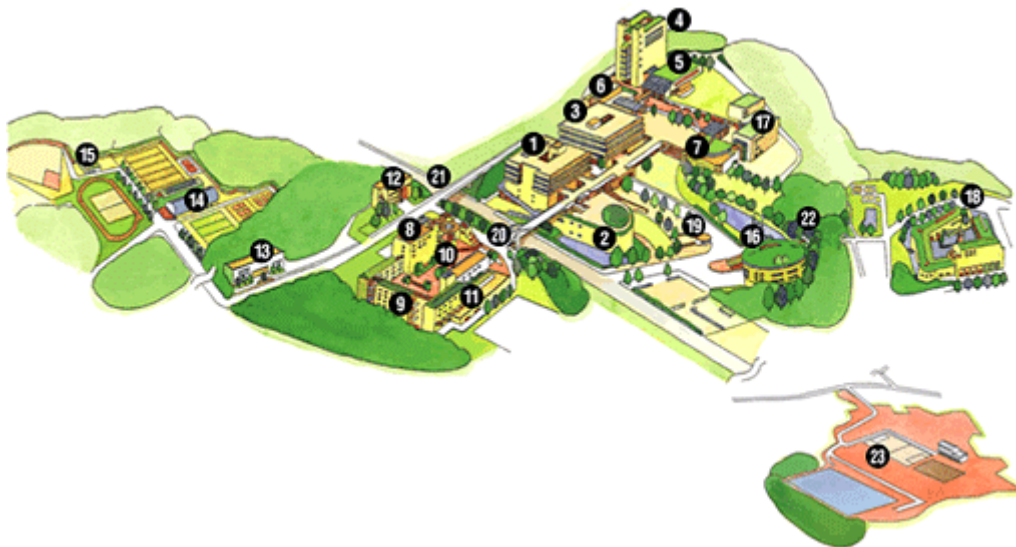
2. 交通・宿泊の案内

◎ 交通のご案内 法政大学多摩キャンパスは都心からかなり離れています。以下に所要時間の目安を記します。

- J R 新幹線東京駅から中央線(特別快速高尾行)経由で西八王子まで 55 分、京王バス(法政大学行)で 25 分、計 70 分
- 京王線新宿駅から京王線(準特急高尾山口行)でめじろ台まで 40 分、京王バス(法政大学行)で 15 分、計 55 分
- J R 新幹線新横浜駅から横浜線(快速八王子行)で相原まで 31 分、神奈中バス(法政大学行)で 14 分、計 45 分
- 羽田空港から京急線品川乗換、J R 山手線新宿乗換、京王線でめじろ台まで 90 分(接続による)。
- 羽田空港から京急線蒲田・横浜乗換、J R 横浜線で相原まで 60 分(接続によるが、意外と便利！)。

◎ 宿泊のご案内 一応は都内ですので、宿は各自ご予約くださいますようお願いいたします。地理的に一番近いのは相模原市内(橋本駅前など)、八王子市内、町田市内ですが、交通の便を考えると、東北・上越新幹線方面の方は新宿か、八王子、立川など中央線沿線が、東海道・山陽新幹線方面の方は新横浜か、相模原、町田など横浜線沿線が、羽田空港方面の方は相模原、町田か京王多摩センター(空港リムジンあり)が比較的便利かと思います。京王線沿線の調布や府中にもビジネスホテルがあります。





※ ⑬が西八王子、めじろ台、相原からのバス停、④、⑤が会場となる社会学部棟です。

会員の皆様へのお知らせ

1. 自由報告の募集 ※申し込み方法にご注意ください

第26回大会の自由報告を募集します。どうぞふるってお申し込み下さい。

なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7月発行の学会ニュース(80号)に自由報告要旨を掲載することになっております。

自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行って下さい。

(1) 自由報告の申し込み及び報告要旨の提出方法 (締め切り: 2008年6月8日(日))

次の①～⑤をA4サイズ1枚に記し、保存した文書ファイルを、**6月8日(日)午後6時までに学会事務局 (u-socio@grp.rikkyo.ne.jp) にE-mail に添付してお送り下さい。**

①報告タイトル(仮題は不可です!)、②報告者氏名・所属(共同報告の場合は登壇者に○をつける)、③報告要旨(50字×20行以内を厳守)、④発表時に使用する機材、⑤連絡先(郵便番号・住所・電話番号・E-mail アドレス)。

なお、使用する機材については、会場の都合により不可能となる場合もあります。また、申し込み締め切りを過ぎたものについては一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバが一時不通になることもありますので、余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。

(2) 注意事項 (必ずお守り下さい!)

共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては学会ホームページをご覧ください。

添付ファイルは、原則としてテキスト形式とします。Microsoft Windows を基本ソフトとするパソコンで作成したものに限り、「Microsoft Word (2003, 2007)」形式でも結構です。

- ① 「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としていますので、図表は入れ込まず、文章のみで作成してください（学会ニュース 1 頁に 2 報告の要旨を掲載します）。
- ② この要領に反し、本文が 1 行 50 字で 20 行を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内に訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意下さい。
- ③ なお、大会当日にレジュメ／資料を配付する場合は、各自で別途ご用意下さい。

＜自由報告申し込みと報告要旨原稿の提出＞

締め切り：6月8日（日）午後6時までに事務局必着

申し込み・報告要旨原稿提出の方法：E-mail による

申し込み・報告要旨原稿提出先：学会事務局 u-socio@grp.rikkyo.ne.jp

2. 理事会報告

2007-2008 年度第 3 回理事会が 3 月 23 日（日）午後 3 時から立教大学で開催されました。

新入会員の承認、社会学系コンソーシアムへの加入と分担金の支払い、国際社会学会 RC21 東京会議でのセッション開催、第 26 回大会に関する打ち合わせ、次々回（第 27 回）大会などの議題について審議いたしました。なお、企画委員会・編集委員会報告については次項をご覧ください。

（事務局担当理事 江上 渉）

3. 企画委員会報告

第 26 回大会では、シンポジウム「郊外ニュータウン開発と地域の記憶——多摩ニュータウンを軸として——」を開催することになりました。本学会では第 18 回大会（2000 年）と第 19 回大会（2001）のテーマ部会で郊外研究を取り上げましたが、今回は「ニュータウン開発と地域の記憶」という視点から、大会開催校に隣接する多摩ニュータウンを事例として取り上げます。多数の会員の参加と活発な議論を期待しています。

（常任理事・企画委員長 渡戸一郎）

＜シンポジウム概要＞

郊外ニュータウン開発と地域の記憶 ——多摩ニュータウンを軸として——

【趣旨】

記憶は、個人や集団と場所や地域を結びつける様々な社会的なメディア、社会的資源の一つである。ある場所に住むとき、人はその場所の中で、その場所との関係における記憶を個人的にも集合的に作り、蓄積し、あるいは忘却し、そのことを通じて人と場所との間の関係が、固有の質や形をもつもの

として形作られる。記憶はその忘却においてすら、一定の社会的機能を果たすのである。

現代の都市では人口の移動と繰り返される開発により、過去の記憶が忘却されたり、地域の空間の中から痕跡もなく消し去られていったりすることが、その社会のあり方を条件づけることのひとつとなっている。そしてそうであるがゆえに、郷土史の試みを始めとして、積極的に地域の記憶や記録を残し、掘り起こすことで空間と社会との紐帯を確認したり、そこへの愛着を作り出そうとしたりする動きも存在する。行政や民間の手による開発において、地域の記憶の伝承と断絶が争点となることがある一方で、地域の記憶を開発のための積極的な資源として活用することが試みられたりもする。記憶は、ある場所を生き、他者と共生する人びとにとっても、そしてまたその場所とかかわりをもつ資本や自治体にとっても、都市や地域という場所と社会をどのように理解し、その場所とどのようにかかわるのが問題化する「場」として存在している。

本シンポジウムでは、戦後日本の都市開発の中で、場所にかかわる人々の記憶がどのような「場」として存在したのか、そうした場をどのような方法のもとに対象化しうるのか、また、そうした「記憶の場」をめぐる問題が都市社会学研究にとってどのような意味を持ちうるのかを、具体的な場や隣接諸分野の試みと都市社会学を結ぶ形で考えることを試みる。具体的には、高度経済成長期以降の郊外ニュータウン開発を取り上げ、とりわけ今回の開催校である法政大学も隣接する多摩ニュータウンを討論の軸の一つとすることにした。郊外ニュータウン開発は戦後の大都市、地方中核都市が共有する歴史的経験であり、そこでは既存の地域社会とニュータウン社会の双方にとって、記憶の断絶と継承、創造と蓄積が問題となってきた。シンポジウムでは、郊外やニュータウンについて独自の視点から考察を加えてきた西川祐子氏、パルテノン多摩学芸員として実際に多摩ニュータウンの記憶と記録の継承・蓄積・創生に立ち会ってきた金子淳氏、多摩ニュータウン学会アーカイブ・プロジェクトに現在携わっておられる中庭光彦氏に報告をお願いし、それに対して都市論、郊外論、社会学的記憶論などの立場からの討論を加えてゆく。郊外ニュータウンにおける場所の経験と記憶、それを対象とする社会学の営みと方法をめぐり、隣接諸分野や地域の住民の方々にも開かれた、発見的な対話の場を作り出したいと考える。

【報告者】 西川祐子（京都文教大学）・中庭光彦（多摩大学）・金子淳（静岡大学）

【討論者】 浜日出夫（慶応義塾大学）・若林幹夫（早稲田大学）

【司会】 浅川達人（明治学院大学）・中筋直哉（法政大学）

4. 編集委員会報告

編集委員会は、2007年10月14日（第1回）、12月9日（第2回）の計2回開かれました。『年報』第26号は、9月の第26回大会で会員の皆様に配布する予定です。

今回の年報では、昨年の第25回大会で開催されたシンポジウム「地域福祉の現在と未来——都市社会の力を問う——」を特集します。またテーマ部会「都市社会学はエスニシティ研究に何ができるか——国際社会学からの問題提起を受けて——」についても、ご執筆いただいております。

その他、例年どおり、自由投稿論文、書評などが掲載される予定で、目下、編集作業を行っております。最終工程の編集と印刷は、引き続きハーベスト社に委託して進めております。

最後に、『年報』に関するご意見、ご要望がありましたら、お気軽に滋賀大学の編集委員会事務局

までご連絡下さいますようお願いいたします。

(常任理事・編集委員長 早川洋行)

5. 『日本都市社会学会年報』27号(2009年発行)

自由投稿論文・研究ノートの募集について

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』27号(2009年発行)に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」および「書評リプライ」を募集します。投稿を希望される会員の方は、『年報』26号(2008年発行)に掲載される編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿(3部)を2008年11月30日(消印有効)までに編集委員会事務局あて、余裕をもって郵送して下さい。なお25号より英文要約を掲載することとなっております。投稿ご希望の方はこの点お含みおき下さい。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしています。

投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

(常任理事・編集委員長 早川洋行)

〒520-0862

滋賀県大津市平津 2-5-1

滋賀大学教育学部 早川洋行研究室 気付

日本都市社会学会編集委員会事務局

電話・FAX : 077-537-7787 (早川研究室直通)

E-mail : hayakawa@sue.shiga-u.ac.jp

6. 国際社会学会 ISA・RC21 東京会議での日本都市社会学会主催セッションについて

国際社会学会 (ISA) のリサーチ・コミッティ 21「Urban and Regional Development」主催による国際会議が、2008年12月17~20日に東京・国際文化会館において開催されます。本学会も後援しているこの会議において、国際的交流の機会を設けまた会員の研究報告の機会を促進するため、国際交流委員会を中心に、企画委員会の協力も得て、対応を検討してまいりました。その結果、日本都市社会学会として1つのセッションを主催することとし、国際交流委員会委員でもある水上徹男会員がオーガナイザーとなって、Community Solidarity and Institutionalisation of Urban Movementsというテーマのセッションを設けることとなりました。なおセッションは全体で25程度が予定されています。各セッションの内容及び参加方法の詳細については、同会議のウェブサイト <http://www.rc21tokyo.com> をご覧下さい。報告の申し込みの締め切りは5月15日で、英文題目と150語以内の英文要約を、オーガナイザーと組織委員会宛に送付することになっています。

(理事・国際交流委員会委員長 青木秀男)

会 員 異 動

新入会員（2008 年 3 月 23 日理事会承認）

< 関 東 > 徳村光太（慶應義塾大学大学院）
津田好子（東京女子大学大学院）
< 中部・関西 > 傅 琳琳（大阪市立大学大学院）

所属・住所・電話番号等連絡先の変更（2008 年 3 月 20 日まで受付分）

所属・住所等の変更

< 関 東 > 堀 崇樹 ㈱メディカル・ハンプ
< 中国・四国・九州 > 佐藤祐一 宇部フロンティア大学

住所・電話番号の変更

< 中国・四国・九州 > 高野和良

退 会（2008 年 3 月 23 日理事会承認）

< 北海道・東北 > 高橋英博
< 関 東 > 高橋博子 佐々木洋成
< 中国・四国・九州 > 開 浩一

転居先等不明（ご存じの方は学会事務局までご一報ください）

柄田明美 楊盈璋 石渡雄介 甕佳代子 朱安新 Ren Xuefei 田中恵 Yamaguri, Ana Elisa
原田真知子 藤島法仁 金子毅

学会事務局より

- ◆ 前号の「学会ニュース」（No. 78）の 3 ページ、「総会の記録」「④監査選挙」の記事中、森岡清志氏の氏名のあとに「会員」という表記が脱落しておりました。また 4 ページ「臨時総会の記録」中の「企画委員会委員長 渡戸一郎理事」は「企画委員会委員長 渡戸一郎常任理事」が正しい表記です。訂正をさせていただきますとともに、関係の皆様には深くお詫びを申し上げます。
- ◆ 本号では、「第 26 回大会」の予告として、「歓迎のことば」および「法政大学への交通案内等」を法政大学の田嶋淳子・中筋直哉会員にお寄せいただきました。どうもありがとうございました。
- ◆ 次号の学会ニュース（No. 80）は、「第 26 回大会特集号」として、大会プログラム、シンポジウムの紹介、自由報告要旨、会場案内などを中心に編集し、7 月下旬頃にお届けする予定です。ご期待ください。

（事務局 江上 渉）